

施策評価シート(令和2年度実施施策)

総合計画 体系	政策	1	政策名	自然に配慮した環境づくり	施策主管課	町民税務課
	施策	1-1	施策名	自然・生活環境の保全	施策主管 課長名	児島 隆昌
関係課	町民税務課					

1. 施策の目的

対象	1町域	意図	①恵まれた自然に配慮し環境の保全を図る
	②町民		②快適で衛生的な環境のもと生活ができる
	③町民(法人・事業所を含む)		③自然と調和した環境を大切にすることを意識を持つ

2. 成果指標

指標名	単位	現状値	上段: 目標値 下段: 実績値				
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
町内河川の水質汚濁に係る環境基準の達成率 (増加)	%	94.7	94.7	94.7	100	100	100
			94.7	94.7	94.7	84.2	84.2
環境に気がついた生活をしている町民の割合 (増加)	%	74.8	76	77.3	78.5	79.8	81
			81.6	79.4	79.8	80.4	77.4
2・3年前と比べて自然環境がよくなっていると 感じている町民の割合 (増加)	%	55.5	57.1	57.9	58.6	59.3	60
			59	58.7	60.3	52.7	53.1
町から排出される一般廃棄物の量(資源ごみを 除く) (減少)	t	5,688	5,348	5,177	5,008	4,841	4,678
			5,312	5,356	5,226	5,212	4,822

3. 指標の分析(成果が向上した、またはしなかった理由)

町内の河川や水路において継続的に水質調査を行っているが、19箇所内の、3箇所環境基準が達成していない河川があった。環境基準を達成していない箇所については、居住地区下流の側溝等であるため、家庭から流される雑排水が原因と考えられる。
環境に気がついた生活をしている町民の割合は近年増加傾向を示していたが、今年度は目標値を下回っている。SDGs関連の新たな情報が溢れたことで日常生活に戸惑う方が増加したのではないかと考えられる。
広報紙や幟旗設置等の啓発活動の取組により、不法投棄や身近な住宅街を流れる水路への廃棄物投棄については減少しているものの、気温の上昇や集中豪雨などの異常気象により、自然環境が良くなっていると感じられないのではないかと考えられる。
10月からの選別収集実施により、10月から3月までの家庭ごみ収集量は、前年度同時期より13.3%減量したが、上半期の収集量があまり減少していなかったため、目標達成に至らなかった。

4. 課題に対する取組(今年度重点的に取り組んだ課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>4月から9月までの期間に選別収集の事前告知、10月からは廃棄物等の排出に対する再確認・再認識を促すチラシ貼付けを実施し、共に各家庭が必ず利用するごみステーションを拠点とした情報発信を行った。</li> <li>多量ごみ搬入申請者に対しては、搬入物に資源物が有れば資源物買取業者へと案内した上で許可書を交付し、資源物買取業者と環境センターはその許可書をもとに受入を行う連携により実施し、リサイクル排出増加を実現した。</li> </ul>
---

5. 次年度の方向性

<p>廃棄物の減量に向けて、町民の方へごみの出し方の再確認・再認識が定着するよう引き続き選別収集に取り組む。 環境保全への対策として、臭気に関する町民からの意見があることから福島県悪臭防止対策指針により測定を実施する。</p>
---

重点的に取り組む課題

廃棄物減量と適正分別への啓発
環境保全への意識醸成啓発

施策の重点事業

廃棄物減量等対策事業
生活環境保全事業

## 6. 施策を構成する事務事業

番号	事業通番	事務事業名	令和2年度決算額 (千円)	最終評価結果	
				事業実施の方向性	成果の方向性
1	4731	害虫防除事業	1,526	継続	現状維持
2	5037	廃棄物減量等推進事業	711	継続	現状維持
3	5218	不法投棄対策事業	1,076	継続	現状維持
4	5219	狂犬病及び犬猫等処理事業	721	継続	現状維持
5	5220	会津若松地方広域市町村圏整備組合負担金	168,072	評価対象外	評価対象外
6	5222	生ごみ処理機等購入補助金	62	継続	現状維持
7	5224	環境対策事業	20	継続	現状維持
8	5430	廃棄物収集運搬事業	85,800	継続	現状維持
9	5431	内堰土砂収集事業	920	継続	現状維持
10	5432	資源物回収奨励金事業	131	継続	現状維持